

◎パンスポリン静注用 [注]

【重要度】★★ 【一般製剤名】セフトリアム塩酸塩 (CTM) Cefotiam Hydrochloride 【分類】セフェム系抗生物質製剤

【単位】▼0.25g・▼0.5g・◎1g/V, ◎1g/バッグ [生食100mL]

【常用量】1日0.5～2g [敗血症には4gまで増量可能]

【用法】1日3～4回点滴静注, 静注

【透析患者への投与方法】1g/日 [HD日はHD後] 点滴静注 (5)

【その他の報告】腎外クリアランスが71%低下する (Evans WE, ed: Applied Pharmacokinetics 3rd ed p8-1-8-49)

Ccr<10mL/minでは, 1日0.25～0.5g [腎機能正常者に1日2g静注した場合と同様の血中濃度を得るための投与量] (1)

50～75%に減量 (4,10) 体重30kg程度なら0.5g/日を考慮 (1)

【PD】初日, 0.5gを1日4回腹腔内投与, 2日目以降は0.25gを同様に1日4回 (Med Klin 89: 464-8, 1994) 0.5～1g/日静注 (5)

【保存期CKD患者への投与方法】Ccr>50mL/min: 1～2g/日を1日2回, Ccr 10～50mL/min: 0.5～2g/日, Ccr<10mL/min: 0.5～1g/日 (5)

【特徴】第2世代セフェム注射薬。グラム陽性菌, 陰性菌に抗菌力がある。グラム陰性菌に対し強い抗菌力を示すのは, 細胞外膜透過性に優れ, β-ラクタマーゼに比較的安定であり, かつペニシリン結合蛋白に対する親和性が高いため細胞壁ペプチドグリカン架橋形成阻害作用が強いためであると考えられている。胆汁への移行が良く静注後2時間で最高値を示す。ジスルフィラム作用がない。

【主な副作用・毒性】ショック, アナフィラキシー, 急性腎不全, 血球減少, 間質性肺炎, SJS, TEN, 痙攣, 好酸球増多, 肝機能障害, 消化器症状, 発熱, 発疹, 血液凝固障害 (VK欠乏に関連), めまい, 倦怠感など

【モニターすべき項目】出血時間, プロトロンビン時間, 便検査 (偽膜性大腸炎をチェック)

【代謝】代謝物に活性はない (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率65～93% (10)

【CL】195～217mL/min (1) 333mL/min (10) 腎CL250mL/min, 非腎CL100mL/minで非腎CL/総CL=35% (Gibson TP: Am J Kidney Dis 8:7-17,1986)

【t_{1/2}】1hr (10) 0.916hr (1) 【透析患者のt_{1/2}】2.7～13hr (10) HD患者: 8.02hr (Antimicrob Agents Chemother 26: 647-51,1984) PD患者 [iv]: 5.09hr (Jpn J Antibiot 41: 405-8, 1988) 非HD時: 8.0hr, HD時: 2.7hr (1)

【蛋白結合率】8% (1) 40% (10)

【Vd】14～21L/man (1) 0.3L/kg (10) 0.52L/kg (Gibson TP: Am J Kidney Dis 8:7-17,1986) 25.4±14.9L (1)

【MW】598.55

【透析性】4hrHDにより血中濃度が30%に低下 (1) 透析開始時に静注するとHD, HF, HDFともに, 終了時には血中濃度が20～30%に低下。6hrHDで49.7%除去 (Antimicrob Agents Chemother 26: 647-51,1984) 5時間透析で透析液中に35%回収 (Lecaillon JB, et al: Antimicrob Agents Chemother 26: 368-72,1984) 【透析時t_{1/2}】2.74hr (Antimicrob Agents Chemother 26: 647-51,1984)

【PD除去率】静注後5時間貯留でPD液には6%のみが回収 (Brouard R, et al: Clin Nephrol 30: 197-206, 1988)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない 【O/W係数】0.244 [2-メチル-1-プロパノール/リン酸buffer, pH7.4] (1)

【更新日】20210405

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。